

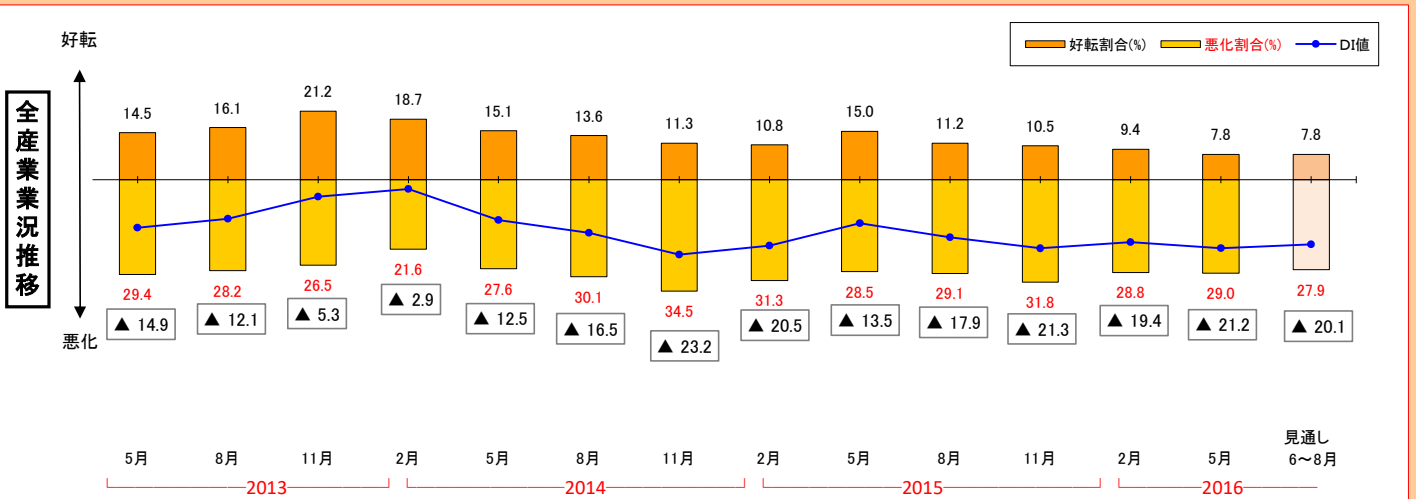
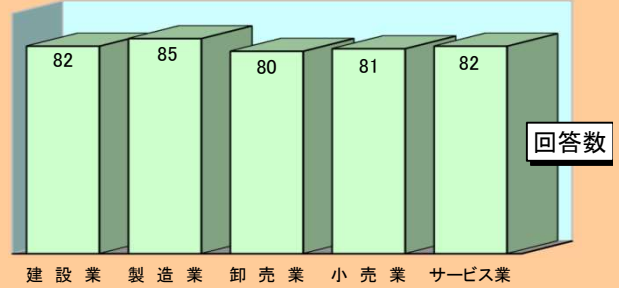
千葉商工会議所景気動向調査 ……平成28年5月調査結果報告……

調査期間：平成28年5月13日(金)～5月25日(水)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 410社 回答率 82.0%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成28年2月、以下同じ)と比較して、建設業・製造業・サービス業が下降し、卸売業・小売業が上昇した結果、全産業合計DIは1.8ポイント下降して▲21.2となり、2期ぶりの悪化となった。また、向こう3ヶ月(6月～8月、以下同じ)の先行き見通しは、建設業・小売業が下降、他の3業種が上昇する見通しとなっており、全産業合計DIは現状より1.1ポイント上昇の▲20.1となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、建設業・製造業が下降し、卸売業・小売業は上昇、サービス業が横ばいとなった結果、全産業合計DIは6.3ポイント下降して▲24.4となり、4期連続の悪化となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業が横ばい、他の4業種が上昇する見通しとなっており、全産業合計DIは現状より7.6ポイント上昇の▲16.8となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業・製造業・卸売業で下降し、小売業・サービス業が上昇した結果、全産業合計DIは2.1ポイント下降して▲20.0となり、2期ぶりの悪化となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業・卸売業が上昇し、製造業・小売業・サービス業が下降する見通しとなっており、全産業合計DIは現状より2.5ポイント下降の▲22.5となっている。

仕入単価DIは、上昇と回答した企業が増えた結果、4期ぶりに悪化となっている。

従業員DIは、不足・過剰と回答した企業がほぼ横ばい、各業界における人手不足の状況が慢性化していることが伺える。

資金繰りDIは、悪化と回答した企業が増えた結果、2期ぶりに悪化となっている。

全体を総括すると、景況感が2期ぶりに悪化した。建設業の人手不足等を理由とする売上高・業況の悪化が影響。先行きについても、依然として慎重な見方が続いている。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは14.7ポイント下降して▲21.9に、売上DIは30.5ポイント下降して▲31.7に、採算DIは13.5ポイント下降して▲26.8となった。業況DIは3期ぶり、売上DI・採算DIは共に2期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIは現状より下向くものの、売上DI・採算DIは現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「従業員不足の為、外注費が増加し業況が悪化している」「今年に入り発注工事が減少している」「職安・民間の求人募集に反応が全く見られない」などの声があった。

【調査結果のポイント】業況DIは2期ぶりに悪化。特に建設業の悪化が影響。先行きについても、依然として慎重な見方が続いている。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧いただけます。
<http://www.chiba-cci.or.jp/>

【全産業】

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは2.5ポイント下降して▲16.5に、売上DIは3.7ポイント下降して▲18.8に、採算DIは8.2ポイント下降して▲15.3となった。業況DIは3期連続、売上DI・採算DIは共に2期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIは現状より上向くものの、売上DIはほぼ横ばい、採算DIは現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「外注業者の賃金に格差が拡大している」「求人募集をかけているが、必要とする人材をなかなか採用できていない」などの声があった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは13.3ポイント上昇して▲20.0に、売上DIは4.5ポイント上昇して▲23.7に、採算DIは0.6ポイント下降して▲25.0となった。業況DIは2期連続、売上DIは4期ぶりの改善、採算DIは2期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DI全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「輸入原料の高騰が利益率の低減に大きく影響している」「天候不順、為替等により、仕入単価の上昇が続いている。個人消費の伸び悩みが続き、経営状況は大変悪い」「募集をしても人が来ない」などの声があった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは6.4ポイント上昇して▲28.4に、売上DIは1.0ポイント上昇して▲30.9に、採算DIは10.2ポイント上昇して▲18.8となった。業況DIは2期連続、売上DIは4期ぶり、採算DIは3期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・採算DIは現状より下向くものの、売上DIは現状より上向くとの見方になっている。

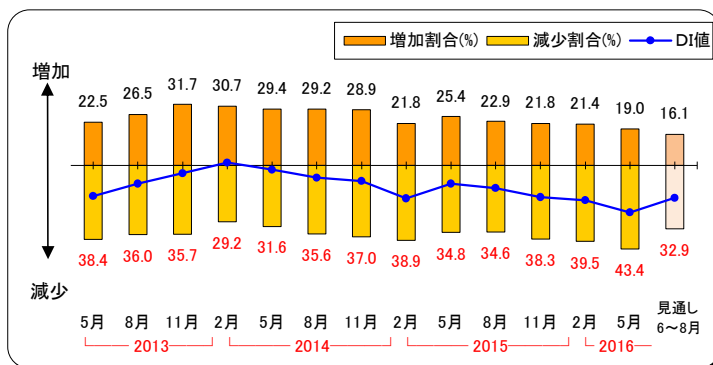
調査回答企業からは、「雇用については常に人手不足」「消費者の購買意欲が弱く、消費税増税以降は、その出が減り続き、景気が悪くなっている」「消費税が10%になれば、ますます中小小売店は立ち行かなくなる」などの声があった。

・サービス業

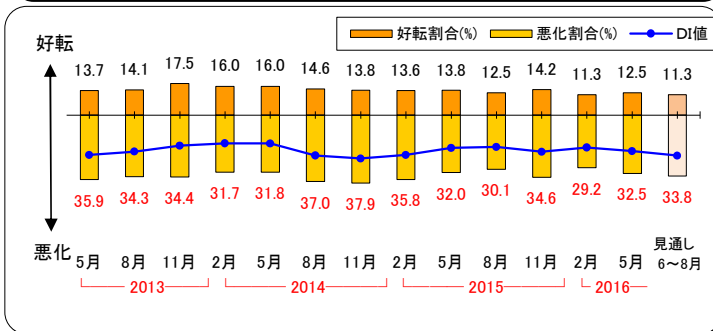
前回調査と比較して、業況DIは8.9ポイント下降して▲19.5に、売上DIは横ばいとなり▲17.1に、採算DIは3.8ポイント上昇して▲14.6となった。業況DIは4期連続の悪化、売上DIは横ばい、採算DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI・売上DIは現状よりも上向くものの、採算DIは下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「天候不順、熊本震災の影響か、5月の売上の伸びが悪い」「アルバイト・パート単価の上昇により利益が圧迫されている」「景気の浮揚感はなく感じられない」「国内外共に物の流れが膠着している様子」などの声があった。

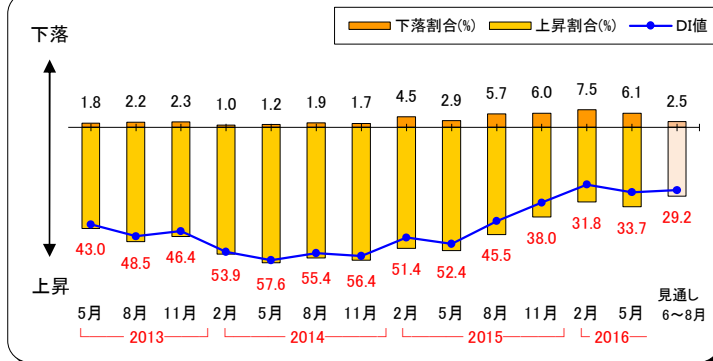
売上推移



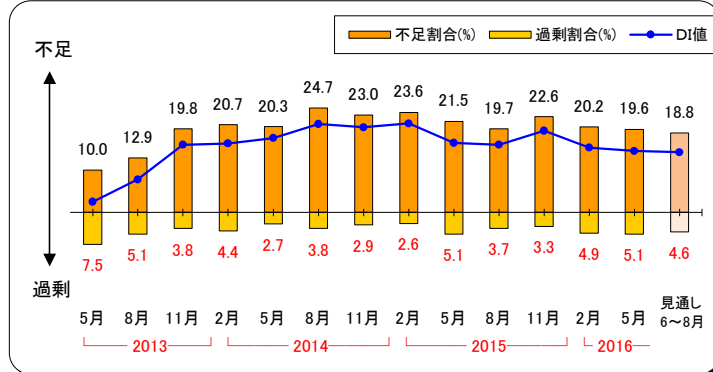
採算推移



仕入単価推移



従業員推移



資金繰り推移

